



Data	
監督・脚本:	魏徳聖 (ウェイ・ダーシオン)
出演:	林忠諭 (リン・ジョンユウ) / 莊鵬瑛 (ジョン・ジェイン) / 舒米恩 (スミン) / 陳米非 (チェン・ミツフィー) / 林慶台 (リン・チンタイ) / 趙詠華 (シンディ・チャオ) / 李千娜 (リー・チエンナ) / 張榕容 (チャン・ロンロン) / 鄭暉達 (アンダーソン・チェン) / 孫睿 (スン・ルイ)

■ショートコメント■

◆魏徳聖 (ウェイ・ダーシオン) 監督の『海角七号/君を想う、国境の南』(08年) (『シネマルーム34号』405頁参照) も『セデック・バレ』もすばらしい映画だった。そのウェイ・ダーシオン監督の6年ぶりの最新作と聞けば、そりゃ必見! しかも、それが近時ハリウッドでも大流行のミュージカル映画と聞けば、なおさら必見! しかし・・・。

◆バレンタインデーは中国語で情人節 (チン・レン・ジエ)。ちなみに、「情人節」と「情人結」は意味は違うが、発音は同じ。そして、中国映画『情人結 (初恋の思い出)』(05年) はすごくいい映画だった (『シネマルーム34』209頁参照)。

また、2010年にはその字幕を担当した水野衛子氏を講師として、NHKラジオ講座の『毎日中国語』のテキストとしてその映画が使われていた。しかして、台湾の若者たちのバレンタインデーの人気は?

本作をみれば、台北=情人節=花とチョコレート=愛の告白という愛のオンパレードの流れにビックリ! さらに、本作のために作られたという17曲の完全オリジナル曲はラブソングばかりだ。それなりに楽しいポップス調のものが多いが、いかんせん本作は全体のストーリーがイマイチ。これでは、ちょっと・・・。

◆本作の原題は『52Hz, I love you』だし、邦題は『52Hzのラヴソング』。この「Hz」とは周波数のことだとわかるが、その意味は何? それは、私を含めほとんどの人がさっぱりわからないだろうが、チラシを読むと「5

2Hzとは、世界で一頭だけ実在するクジラが発する音の周波数。ほかのクジラとは周波数が違うため仲間とコミュニケーションがとれず、たったひとりで大海を彷徨っているという。」と解説されている。それを読んでもイマイチピンとこなかったが、本作を見れば、なるほど、なるほど・・・。

◆本作には多くの人物が登場するが、主役は若い男2人に若い女2人の計4人。日本でも今時の若い男は恋愛に不器用なヤツが多いが、それは台湾でも同じらしい。男の2人は2人ともギターは弾くものの、恋の方面における不器用さときたら・・・。しかして、『52Hzのラブソング』という邦題にも納得！もっとも、半分寝ながら見ても楽しめる本作が、いいのか悪いのか・・・。

2018（平成30）年3月7日記